



H17. 9.30 1162
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. アワビ密漁防止へ エコラベル取り付け作業始まる

県密漁防止対策協議会では、9月21日から南伊豆町漁協において昨年に引き続き「エコラベル(タグ)」の取り付けを開始しました。

これは、漁業者が漁獲したアワビにエコラベルを取り付けることにより、密漁防止効果を図り、食の安心・安全からみた生産履歴や産地のブランド化等の波及効果を目指すものです。

アワビに取り付けたエコラベルは、直径約2㍍の長円形の黄色い標識に、6桁の番号が記載され、消費者は同漁協のホームページにアクセスして番号を入力すると 種類 採取場所 採取日 出荷日などの生産履歴を確認することができます。昨年は約300個のアワビにエコラベルを装着しましたが、本年度は2,000から3,000個のアワビにエコラベルを取り付けることを計画しています。

2. 平成17年サクラエビ秋漁の操業日程を決定 - 県桜えび漁業組合 -

県桜えび漁業組合では、9月9日役員会を開催し、本年サクラエビ秋漁の操業期間と休漁日を次のとおり決定しました。

操業期間：11月3日(木)晩～12月28日(水)朝 休漁日：11月/2日(水)、5日(土)、12日(土)、19日(土)、22日(火)、26日(土) 12月/3日(土)、10日(土)、17日(土)、22日(木)、24日(土) 合計 = 11日間

また、秋漁を前に例年同様「生産技術研修会」を、来る10月20日大井川町漁協、10月21日由比港漁協で夫々開催します。

3. イセエビ刺網漁解禁 南伊豆地域のイセエビの漁獲量は例年並みの78トンと予測

南伊豆の海岸では、本格的な秋の訪れを告げるイセエビ刺網漁が、9月17日解禁(漁期は来年5月14日まで)となりました。

解禁当日は、海況の状況により水揚が行われたのは下流漁港のみで、月夜とその後の台風の影響を受け本格的には23日より水揚が行われました。

また解禁前に、県水試伊豆分場は、南伊豆地域のイセエビの本年度漁期の漁獲量について、子エビの漁獲尾数と、親エビの漁獲量の相関関係から今年度の見通しを、前年並みの2割増で、ほぼ例年並みの78㍉程度になると発表しています。昨年のイセエビ漁獲量は64㍉で、体長13㍍以下の子エビの漁獲尾数は12万8千尾でした。また、漁獲量は昭和62年に最少となり、平成2年以降は緩やかな増加傾向を示しています。

イセエビの刺網漁は南伊豆町の解禁を皮切りに、東伊豆町稲取、松崎町が同月23日に解禁し、下田市が10月1日の解禁となります。

4. 平成16年水産業生産指数を発表

農水省は9月15日、平成16年の農林水産業生産指数(概算)を発表しました。この指数は、平成12年を基準年(100)とし、農林水産業における生産量の動向をマクロ的、長期的に把

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

握する指標として、国内で生産された農林水産物の生産量を対象としています。

それによると、平成16年の農林水産業生産指数(農林水産業総合)は93.3で0.4%上昇し、このうち水産業生産指数(水産業総合)は91.0で、海面漁業、海面養殖業の漁獲量等が減少したことから、前年に比べ5.3%低下しました。

水産業の生産指数を部門別で見ると、海面漁業は88.9で、クロマグロ、タチウオ等の漁獲量が増加したものの、カツオ、サケ類、ブリ類、シラス等の漁獲量が減少したことから、前年に比べて5.9%低下しました。

海面養殖業は99.2で、カキ類、板ノリ(クロノリ)等の収穫量が増加したものの、台風の影響により、ブリ類、ホタテガイ等の収穫量が減少したことから、前年に比べ3.5%低下しました。

内水面養殖業は84.0で、アユ、ウナギの収穫量が増加したものの、コイヘルペスによりコイの収穫量が減少したこと等から、前年に比べ3.1%低下しました。

5. 水産庁大型クラゲ対策推進本部を設置 出現状況等集計速報公表

水産庁では9月16日、水産庁長官を本部長として、水産庁の関係部局からなる大型クラゲ対策推進本部を設置し、関係各県と密接に連携を図って、大型クラゲの出現状況を的確に把握するとともに、その被害の回避や防除等について、迅速かつ的確な対応を行います。

水産庁、(独)水産総合研究センターが9月22日、大型クラゲ出現状況等集計速報を公表しました。それによると大型クラゲは、北海道南部上磯沖や岩手県宮古沖などでも出現が報告されており、日本海から北太平洋北部及び四国沖から房総半島犬吠埼沖までの広範囲で来遊が確認され、静岡県でも数個体が定置網、底曳網に入網しています。

京都府や福井県では、定置網で1網当たり数百個体、多い事例で2千個体が入網しています。日本海北部でも、数百個体が定置網に入網したとの事例があります。

大きさは、傘の直径で30～100cmと小さいものから大きいものまで様々なサイズのクラゲが確認され、太平洋側での定置網への入網は、大部分は1網当たり数個体前後にとどまっていますが、中には60個体/網という報告もあります。

6. 県TAC(漁獲可能量) 8月末漁獲実績を発表

県では、このほどTAC対象4魚種の8月末現在の漁獲実績を発表しました。それによると、サバがTAC数量13,000㍉に対し11,408㍉で消化率87.7%となり、TAC数量が若干量の魚種では、マアジ2,656㍉、マイワシ256㍉、スルメイカ218㍉の漁獲量となりました。また、サンマは69㍉の漁獲量でした。

7. 津波・高潮ハザードマップ作成

内閣府、農水省及び国土交通省は、共同で「津波・高潮ハザードマップ作成・活用事例集」(津波や高波の被害に遭わないために)を作成しました。

事例集は、各自治体がハザードマップを作成する際に参考となるよう、これまでに作成されている各自治体のハザードマップを収集・整理し、その特徴や具体的な工夫を取りまとめて紹介しています。国土交通省のホームページからダウンロードもできます。

問合せ先： 沿岸技術センター(TEL03-3234-5862) 定価2,100円(税込)

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう